

Rakuten Social Accelerator 中村さんに

「コロナ禍」におけるNPOへの支援についてインタビューしていただきました



新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの市民活動団体やNPOが、運営や活動に大きな影響を受けています。今回は、地域の課題解決と価値創造について一歩先の取り組みを進める支援と仕組みづくりに取り組まれている岡山NPOセンターのNPO事務支援センター長 加藤彰子さんにオンラインでインタビューさせていただき、「コロナ禍」におけるNPOへの支援について、お話を伺いました。

⇒ はじめに岡山NPOセンターについて教えてください。

岡山NPOセンターでは、「NPO事務支援センター」、「地域連携センター」、「参画推進センター」の3つセンター事業を柱に活動をしています。

⇒ 加藤さんはNPO事務支援センターでどのような業務を担当していますか？

NPO事務支援センターの業務は、相談、事務代行、セミナー開催、組織基盤強化など、個別のNPO団体の活動がスムーズに行えるような事務を支える活動を行っていき、このほとんどの業務を加藤が行っています。

また、岡山県の業務委託を受け、5月に「コロナ相談室」を設けて、NPOのみなさんからの相談を受け付けています。

⇒ このコロナ禍で運営に困っている団体がいらっしゃるのではないかと思います

実際のところは、国からの助成金を受給したおかげで、活動を継続できている団体は多いように感じています。

ただ、岡山県内に約800を超えるNPO法人があります。当センターの会員になっていて、普段からコミュニケーションできている団体はごく一部です。最近では、この「コロナ相談室」をきっかけに、これまで関わりがなかった団体からご相談いただくケースも増えていますが、もっと多くの団体に寄り添い、団体の運営や活動改善のお手伝いをしたいと思っています。

⇒ コロナ相談窓口には、どのような団体からの相談が多いでしょうか？

ご存じないかもしれませんが、実は岡山県はNPOの活動が活発な地域なんです。子供への支援が積極的な地域でもあります。このいった背景から、特に子育て支援の団体運営に対するご相談を頂くことが多いですね。また、高齢者や障害者の支援施設からのご相談も多くなっています。



⇒ 新型コロナウイルスの影響で、NPOの現場ではどのようなことが起きているのでしょうか

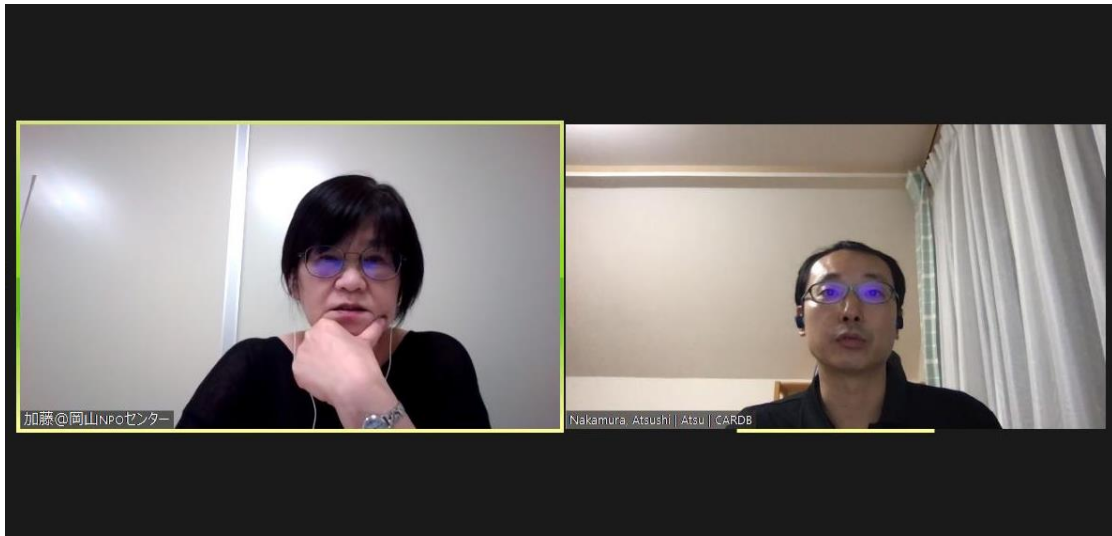
例えば、耳が不自由な方を支援するNPOの例では、3月から6月までは耳が不自由な方のご自宅を積極的に訪問する形式をとっておりました。また、障がいを持つお子さんを支援するNPOの例では、お子さんを支援するだけでなく、そのお子さんを支える母親の支援を実施されているケースも増えております。こういった例からも、これまでの支援とは少し変わってきている印象があります。

⇒ コロナ禍以前より、支援を受ける方々にとって手厚い支援が必要となってきますね。

各団体の支援についても、手厚くする必要のあるケースや、お子さんがいるスタッフが学校の休校などもあり、出勤できなくなる事もありました。NPOの運営としてはかなり厳しい状況です。ただし、国からの助成金などもあり、職員の給料の支払いや減収となっている収入源の少しは補われていると感じます。このため、積極的に活動しているNPOはその運営を継続できているといった状況です。

⇒ 積極的な活動を行っている団体がいる一方で、コロナ禍で苦境を感じているNPOも中にはあると思われませんか？

そのように感じています。コロナ禍以前は助成金の申請というと、申請書類が煩雑であり、自治体向けの申請書類の作成が得意な方でないと難しいと感じることが数多くありました。しかし、このコロナ禍において、助成金申請のハードルは実は下がっているのですが、苦手意識のある方はなかなか相談に来てくれません。



⇒ このような苦手意識を持っている方をサポートしたいと思われませんか？

約7割のNPOの方は申請自体を諦めてしまっており、対象になると思っていないケースも見受けられます。様々な団体がこれからも活動を続けていけるように、アプローチの仕方を考えていきたいと考えています。

⇒ 新型コロナウイルスの影響を受けて困っている人を助けようと、活動を始めた人達も多いのではないかと思います。

この半年間、NPOを立ち上げたいという相談が増えています。特に子供やその母親の支援、また妊婦の方への支援について、興味を持つ方が増えてきています。この国の未来は、子育てからという思いをお持ちの方が多いためだと思います。

⇒ NPOを立ち上げたいと考える方々は、どういった方が多いのでしょうか？

以前は退職後の男性や子育て後の女性が多かったですが、最近では男女や年代の相関が薄くなり、全体的に参加する方の年齢が下がってきています。

⇒ このコロナ禍で新たな発見はありましたか？



Zoom等を使ってオンラインで何でもできるということがわかりました。以前は会議室に集まってセミナーを開催することが多く、出張して講演を行うというケースも多々ありました。現在は出張の回数が減り、その分、NPOの方々の支援を充実させることができました。驚いたことに、県外の方から相談を受けるケースも増え、Zoomを使って実際にオンラインでアドバイスさせていただいたこともあります。また、オンラインで支援させていただくと、オンラインを使った活動を思いつく方々もいらっやいます。

⇒ 色々お話を伺うことができ、ありがとうございました。最後にまとめとして、今後どのような活動を行っていきたいでしょうか？

このコロナ禍を通じて、色々学ぶこともありましたが、これまで届いていない方々への支援をもっと増やしていきたいですね。それには、支援を受けたいNPOの方々にもっと寄り添って、一緒に考えてアイデアを形にする事ができればと考えています。また、支援が必要な方々に情報を届ける方法も考えていき、サポートの幅を広げていきたいです。

---編集後記---

このインタビューを通して、コロナ禍によって、そのNPOの支援という形自体が変わってきているようでした。

加えて、新しいオンラインミーティングの活用などによって、その支援の可能性も広がっていると感じました。他方、在宅勤務など新しい働き方が一般企業に広がっているように、NPOの方々が実施する活動自体が変わってきているため、そのNPOを支援する岡山NPOセンターの皆様も、新しい方法を取り入れる必要があるなど、一様の支援が通じにくくなってきているようにも思えました。

インタビュー中に加藤さんからお話があったように、新しくNPOを始めたいという方々も増えているというお話を伺い、今現在の社会的課題がNPOの活動を通じて、自律的に自然治癒する社会に少しずつなりつつあるのではないかと考える一日となりました。

< 楽天 / 中村 敦 >